

ねん がつ にち  
2023年7月16日

ねんかんたい しゅじつ  
年間第15主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地 功大司教 メッセージ

かみ 神のことは、つね 常にわたしたちとともにいてくださるかみ げんそん 神の現存です。なぜならば、よ お 世の終わりまでわたしたちとともにいてくださるとやくそく 約束されたしゅ イエスこそは、「ひと 人となられたかみ ことば 神の言」であるからにほか 他なりません。この世界の現実のなかであって、かみ 神のことはさまざま 様々な方法を通じて幾たびも幾たびも繰り返されなげん 響き続けているにもかかわらず、いまだ世かいぜんたい 界全体にはしんとう 浸透していません。

ヨハネ福音の冒頭に、「ことば よ 言は世にあった。よ ことば 世は言によって成ったが、よ ことば みと 世は言を認めなかった。ことば じぶん たみ 言は、自分の民のところへ来たが、たみ う い 民は受け入れなかった（ヨハネ一章 10・11節）」と記されているとおりであります。かみ 神はご自分のことばをたね 種のようにま つづ 蒔き続けられているにもかかわらず、おお 多くの人の心の中にゆた 豊かな実りをう だ 生み出すにはいた 至っていません。

ですから、わたしたちは、かみ 神がま つづ 蒔き続けておられるたね 種がゆた 豊かに実をむす 結ぶように、どじょう よ 土壌を良いものにかいりよう 改良していくようにつと 努めなくてはなりません。たね 種がまかれるためには、よ み 実をむす 結ぶようにと、じぜん 事前にしておかななくてはならないじゅんび 準備があります。

そのじゅんび 準備、すなわちどじょうかいりよう 土壌改良を成し遂げるのは、わたしたちひとりひとりのひび 日々の生活における、ことば おこな 言葉と行いによるかみ 神のあい 愛といつくしみのあかしであります。ひと 人とのかかわりの中で、わたしたちの言葉と行いは、かみ 神の言葉のたね 種がま 蒔かれるどじょう よ 土壌を良いものとしていくための、もつとも ちから 力のあるどうぐ 道具であります。かみ 神の言葉がゆた 豊かに実るときに、そこにはたまもの 賜物であるいのちをさいゆうせん 最優先にしてまも ぬ 守り抜くせかい 世界がじつげん 実現しているはずで、いのちをまも 守らずにいかさないしゃかい 社会というどじょう 土壌で、かみ 神の言葉のたね 種がゆた 豊かに実りをう だ 生み出すことはできません。

インターネットがふきゅう 普及しているげんたいしゃかい 現代社会では、じょう のこ ネット上に残されていくことばもかみ 神のあい 愛といつくしみをあかしするものでなければなりません。とき 時にきりすちやん クリスチャンをひょうぼう 標榜しながら

ら、他者のいのちに対して攻撃的になるような、きわめて利己的な主張や愛に欠ける主張を目にするとき、いったいどのような土壌を神のことばの種のために備えようとしているのかと思い、悲しくなることがあります。わたしたちは口から語る言葉、書き記す言葉、どちらにあっても自分の語る言葉と具体的な行いが、神のことばの種を蒔く土壌を準備するためなのだと、常に心しておきたいと思います。